

平成21年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	美容に食と運動を融合した健康美デザイナー養成プログラムの開発		
法人名	学校法人 大美学園		
学校名	大阪美容専門学校		
代表者	理事長 谷本 穎昭	担当者 連絡先	副校長 谷本 佳隆 06-6761-6569
1. 事業の概要（300～500字程度）			
<p>美容の進化とヘルスケアに対する意識の高揚を背景として、「健康美」に対する関心が高まりつつある。すなわち、ヘア、メイク、ネイルといった従来的かつ表層的な「美」に、健康に裏付けられた内面的な「美」を兼ね合わせた本質的な「美」の実現をデザインする技術が求められている。</p> <p>本事業では、内面的な「美」が人間のメンタルとフィジカル両面の健康によって実現され、さらに、健康は食育（栄養）と体育（運動）の適切な融合によってつくられるとの認識から、内面的な「美」を「健康美」としてとらえた。そしてこれを実現する「健康美デザイナー」の育成プログラムの開発を目的とした。この目的のために、本事業では関連領域の専門学校、食育や運動、健康に関連する民間企業・団体から成る実施委員会を組織し、実態調査に裏付けられた健康美デザイナーの人材像・スキルマップを定義した。その上で同マップにしたがった育成プログラム・コア教材を開発し、これらの効果について実証した。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>本事業では、職業能力評価基準（厚生労働省）など既存のスキル標準制度も参考にして、健康美デザイナーを一つの職種としてとらえ、そこで必要となる職務、能力、知識・スキル等を体系的に整備した。さらに、職務のレベルに関する定義を加えることにより、健康美デザイナーのスキルマップを開発した。</p> <p>開発したスキルマップの内容を踏まえ、健康美概論、食育実習、体育実習、美容実習の4科目から成る90時間の「健康美デザイナー養成プログラム」を開発し、そこで使用する教材の定義、教材の開発を実施した。</p>			
②ニーズ調査等（手法・期間・効果）			
<p>教育プログラム開発の参考とするため、国民や住民を対象にその健康の増進を図る各種の行政施策の種類・内容を調査した。また、健康美デザイナーのスキルマップの開発につながる諸情報を収集するために、健康美に関連する諸領域における人材育成方法等について実態を調査した。</p>			

③実証講座の状況

実証講座は次のように実施した。

- ◆期 間：平成 21 年 12 月 9 日～平成 22 年 2 月 14 日
- ◆場 所：大阪美容専門学校、辻学園栄養専門学校、大阪 YMCA 国際専門学校
- ◆被験者：専門学校生 9 名（大阪美容専門学校 4 名、大阪 YMCA 国際専門学校 5 名）
- ◆教 材：科目毎に講師が用意
- ◆講座科目：
 - 1 健康美概論（20 時間）
 - 2 食育実習（21 時間）
 - 3 体育実習（22.5 時間）
 - 4 美容実習（26 時間）

◆結 果：

- ・ デイリーチェック（携帯を使って様々な項目を毎日エントリーするチェック）の結果の分析から、実証講座の期間に生活習慣の改善傾向が見られた。
- ・ 毎回（一部は科目ごと）実施した授業アンケートから、すべての科目について、授業内容と効果、授業の進め方、被験者自身の態度のいずれもがポジティブな回答であった。
- ・ 講座の最終日終了後に実施した修了時アンケートから、極めて高い健康美に対する認識や動機付けの傾向が観察された。また、生活習慣の改善傾向と、「美」に向けた行動傾向が観られた。
- ・ 総合すると、本事業で開発した 90 時間の「健康美デザイナー養成プログラム」の受講によって、健康美デザイナーとしての基礎的な知識・スキルを身につけると共に、健康美に対する十分な動機付けが可能であることを検証できた。

◆実施の様子

- ・ 健康美概論（ウォーキングの大切さ）
- ・ 食育実習（ヘルシーなケーキ作り）



- ・ 体育実習（ストレッチ）



- ・ 美容実習（エステ）



④その他

3. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業では三種類の評価を行った。その結果を引用し、目的の達成状況を示す。

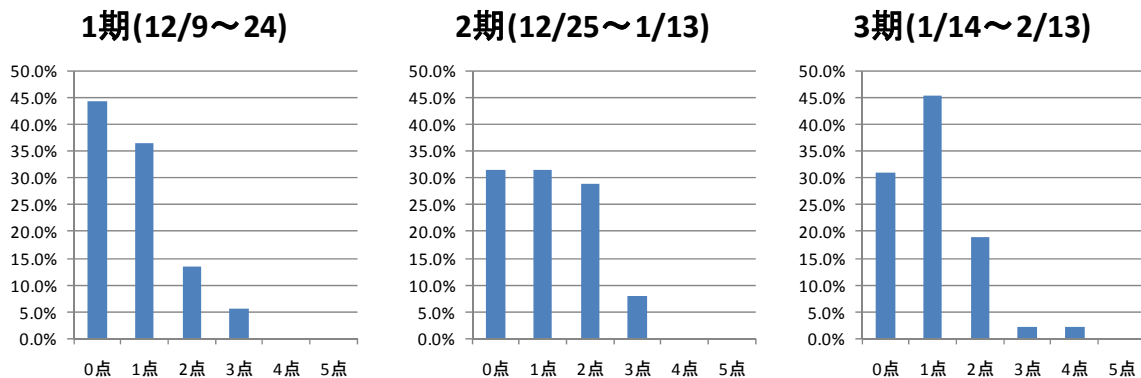
(1) デイリーチェック

デイリーチェックは、実証講座期間内の毎日、被験者が次のような項目について携帯電話からエントリーしたデータを分析した。

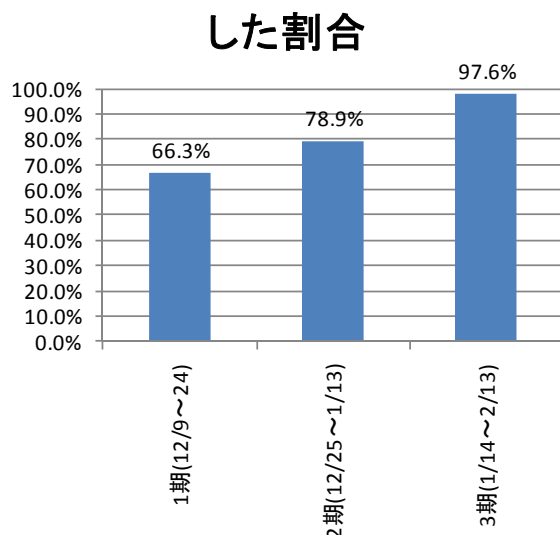
食事の時間・内容、間食・嗜好品の摂取量、運動量、睡眠時間、肌や頭皮に対するケア状況
デイリーチェックシステムには実証講座期間中 184 件のエントリーがあり、これらを分析した結果、生活習慣の改善傾向、肌や頭皮に対するケアを大事にする傾向などが観察され、被験者の健康美に対する意識の高まり及びそれに向けたアクションを感じ取ることができた。

次に示すのは、その分析結果の一例である。

- ・ 食事バランス得点…1期～3期にかけて得点が徐々に高くなっている



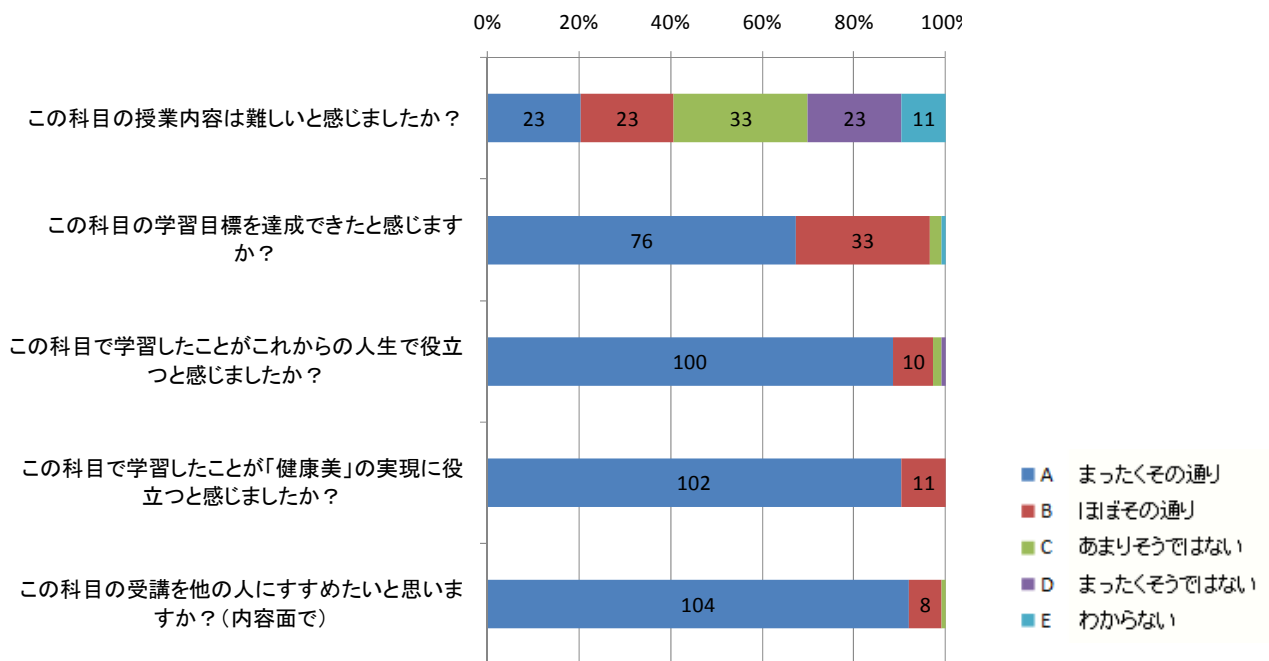
- ・ スキンケア…スキンケアをした割合が着実に増加している



(2) 授業アンケート

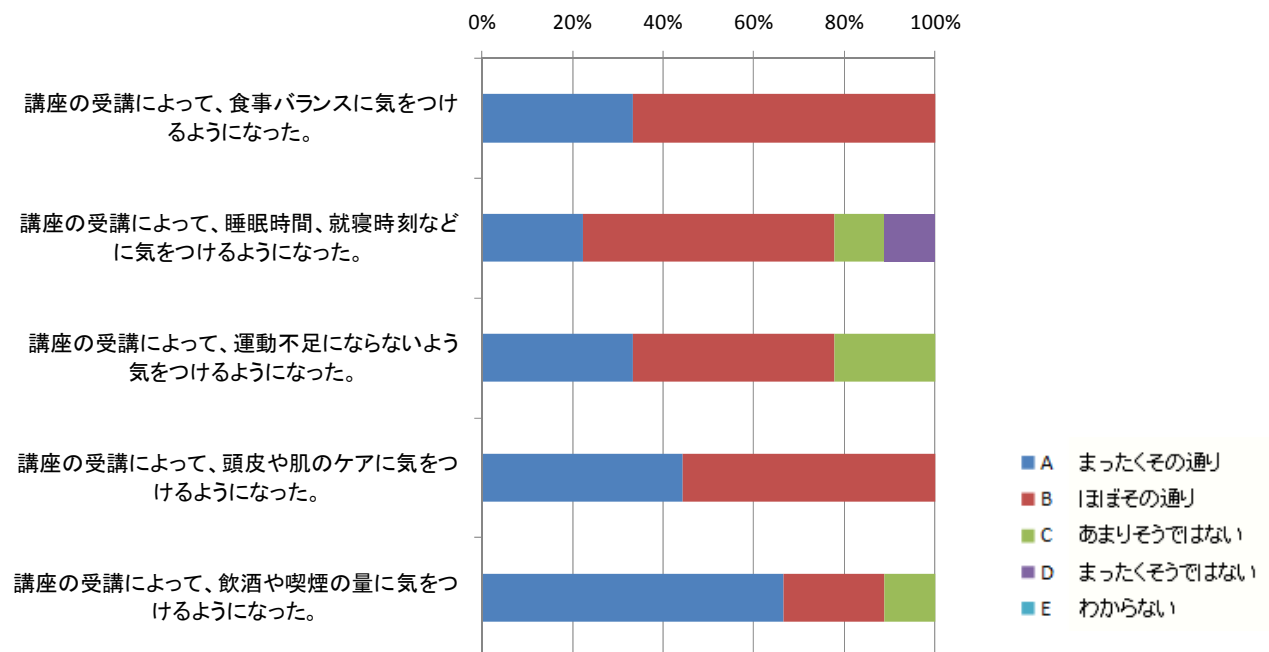
授業アンケートは、毎回授業終了後（科目によってはその科目の授業終了後）に行い、授業の内容・効果、授業の進め方、被験者自身の態度の三つの観点から用意した質問に回答してもらった。次のグラフは、授業の内容・効果に関する質問への回答状況（全科目の

合計)を示したものである。これを見ると、難易度に対する評価はばらばらであるが、目標達成度、役立ち感、勧奨度(満足度)について、極めて高い評価を得ていることが分かる。



(3) 修了時アンケート

修了時アンケートは、全ての科目の授業を終えた実証講座の最終日に行い、講座全体の感想、生活習慣の改善状況、「美」に関連する事項の変化の三つの観点から用意した質問に回答してもらった。次のグラフは、生活習慣の改善に関する質問への回答状況であるが、睡眠と運動、飲酒・喫煙については肯定的でない回答が含まれているが、全体を通じて(特に、食事と頭皮や肌のケア)生活習慣を改善したという回答を得た。



②事業の成果

実態調査では、代表的な行政施策の内容を明らかにした。国が行っている取組みである

「健康 21」は今一つ明らかな成果をあげられておらず、新しい考えに基づく取組みが必要であると考えられる。また、食育、体育を中心に、エステティック、アンチエイジングなどの関連領域も含めて、各取組みの内容、そこで描かれている人材像、学習体系、教材などを収集できた。

スキルマップの開発では、実態調査で収集した資料などを基に、健康美デザイナー職種を想定・定義し、この職種の各職務を遂行する上で必要な知識・スキルを体系化した。また、同職種を頂点とする知識・スキル体系に、レベルを加味したスキルマップを開発した。

開発したスキルマップを基に、健康美デザイナーが持つべき知識・スキルを習得するための、健康美概論、食育実習、体育実習、美容実習から成る 90 時間の養成プログラム及びそこで使用する教材のうち必要なものを開発した。

開発した健康美デザイナー養成プログラムのすべてを実施する講座を、平成 21 年 12 月から平成 22 年 2 月にかけて実施した。その結果、デイリーチェックデータの分析から、被験者には、健康美の実現要素となる生活習慣に改善が見られた。また、アンケート結果の分析から、被験者には、健康美に関する概念の形成と定着、知識・スキルのが身につく、今後の生活習慣に対する健康美の観点からの動機付けなどが観察された。これらの分析の結果、本事業で開発した健康美デザイナー養成プログラムは、その目的を十分達成できるものであることが確かめられた。

③次年度以降における課題・展開

本事業では 90 時間という実証講座にしては長い期間を費やしたが、健康美デザイナーを職種として確立するには、2 年ないし 3 年課程を目安にした専門的教育プログラムが必要であり、本事業の成果をベースにした拡張がその実現に有効であると考えられる。

本事業ではエステティック、アンチエイジングなどの関連領域を調査・研究対象とし、一部、講座の中にも組み入れたが、健康美に対する志向との親和性が高いことが分かった。今後、これらの領域の研究を進め、一層の融合を図るべきと考える。

本事業は「健康美」を対象としたが、「美」の概念は幅広く多様であるため、美容業界と融合を図れる領域はさまざまであると思われる。本事業の成果をベースに、美容専門学校として、さまざまな「美」の実現に寄与したい。

④成果の普及

事業の成果を広く公開する目的で、3 月 5 日本校にて専門学校関係者 8 名、関連業界関係者 4 名などを集めて報告会を開催した。

成果報告書については、250 部を作成し、専門学校関係者および業界関係者を中心に広く配布を行った。